

◆シャンプー 配合成分詳細

●ココミドメチルMEA

ヤシ由来の脂肪酸と、ヒドロキシエチルメチルアミンを縮合反応によって作られる、非イオン性界面活性剤（ノニオン界面活性剤）です。

気泡性、増泡性に優れていて、シャンプーや洗顔料などの泡立ちを良くする為に使われます。

単体で使われずほかの洗浄成分の助剤として使用されます。

皮膚刺激性やアレルギー性はほとんどなく、一般的に安全性に問題のない成分であると考えられています。

●ココミドプロピルベタイン

ココミドプロピルベタインとは、ヤシ油から得られる脂肪酸と、脂肪酸アミドアミンを合成することによって得られるヤシ油脂肪酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタインです。両性界面活性剤として使用され、医薬部外品として表示される場合は、ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン液と呼ばれます。

ラウリン酸とミリスチン酸が主な構成成分であり、次いでステアリン酸、パルミチン酸、カプリル酸、カプリン酸などの飽和脂肪酸によって構成されています。両性界面活性剤であることから、酸性領域が等電点以下になると、陽イオン界面活性剤に変化するという点
が特徴です。

●ラウロイルメチルアラニンN a

アニオン（陰イオン）界面活性剤に分類されるアミノ酸系の洗浄剤です。

マイルドな洗浄力で弱酸性の低刺激な洗浄成分です。泡立ちがとてもよく、さっぱりと洗えます。さらに、コンディショニング効果があります。

また、天然由来原料のアミノ酸や脂肪酸からできたナトリウム酸ということもあって、生分解性がよく、環境にも優しい界面活性剤といえます。

また、両性イオン界面活性剤を同時に配合すると液体が安定化して、とろみが増す効果があります。

洗浄力も弱く皮膚刺激は少ない洗浄成分で、光毒性やアレルギー性は低いとされています。

●ココイルグルタミン酸T E A、

ヤシ油脂肪酸とグルタミン酸からなる陰イオン（アニオン）界面活性剤です。医薬部外品では、「ヤシ油脂肪アシルグルタミン酸 TEA 液」と表示されます。アミノ酸系洗浄成分の中でも比較的マイルドな洗浄力で泡立ちが弱い特徴を持ちます。

コンディショニング作用が高く、髪や頭皮に潤いのあるしっとりとした仕上がりになります。

弱酸性で脱脂をしすぎないマイルドな洗浄力は、低刺激で乾燥肌・敏感肌にもおすすめです。

逆に汚れや皮脂が多い頭皮、整髪料をつけた髪では泡立ちが悪く、汚れを落としきれない場合があります。皮脂汚れが残ることで地肌のかゆみの原因になることも。

低刺激であり安全性には問題なく、皮膚刺激性や光毒性もほとんどないと考えられています。

●ラウレスー 4 カルボン酸 Na、

陰イオン（アニオン）界面活性剤です。

石けんと似たような構造・性質をもちつつも弱酸性なので、「酸性石けん」と呼ばれます。

比較的高い洗浄力をもちながら、髪や肌への刺激性が低い。

泡立ちもよくて、さっぱりと洗える洗浄剤でサロン専売シャンプーに使われることが多い。

高めの洗浄力と低刺激性を両立したい人におすすめの洗浄成分です。

皮膚刺激性や眼刺激性、アレルギー性などはほとんどなく、安全性に問題のない成分であると考えられています。

ただ、脱脂力もある程度強めなので、乾燥肌・敏感肌の人、ダメージ毛の人は肌や髪の状態をみながら使うことをおすすめします。

ラウレス-の後にくる数字が大きくなるほど刺激が弱くなります。

●ヤシ油脂肪酸PEG-7グリセリル

ヤシから得られた脂肪酸と、グリセリンに酸化エチレンを付加させたものの化合物。

油性成分との相性がよく、伸びの良い柔らかい感触を与えます。乳化機能を備えたエモリエント剤として、クレンジングやメイク品などにも多く配合されています。

また、髪のキシミ感を緩和できる特徴があり、髪を洗う時のヌルつきをおさえる効果もあります。

シャンプーなどへの配合量や通常の使用において、安全性に問題のない成分であると考えられます。

●ココアンホ酢酸Na

ココアンホ酢酸Naは、ココナツオイルから抽出される有機化合物です。植物オイルは、天然に大量生成される脂肪酸で構成されています。ココナツオイルは、化学物質業界にとっても非常に重要な原材料です。簡単に分離することができ、エステルやアミドなどの化合物を製造するために使用されます。これらから、ベタイン界面活性剤、陰イオン界面活性剤、両性界面活性剤やスルホコハク酸塩などが製造されます。

化粧品配合量および通常使用下において、一般的に安全性に問題のない成分であると考えられます。

●ココイルメチルタウリンNa、

タウリンを原材料にしたアニオン（陰イオン）界面活性剤です。

皮脂を取りすぎる事のない適度な洗浄力があり、泡立ちが良くてベタつかない使用感。

仕上がりはさっぱりとしていて髪のとまりを損なわず、ふんわり仕上がります。

ベビーシャンプーに使われるほどの低刺激な安全性の高い洗浄成分です。

肌のあれやすい方やダメージのある髪、ヘアカラーの退色が気になる方におすすめ。

比較的高価なシャンプーに配合されていることが多い。

30年以上の使用実績があり、皮膚刺激性やアレルギー性は非常に低く、安全性が高い界面活性剤と考えられています。

また、キューティクル剥離性が弱いことがわかっていて、ココイルメチルタウリンNaは髪へのダメージも少ない成分と言えます。

●ポリクオタニウム-10

ポリクオタニウム-10の特徴は、天然由来の成分を元に作る皮膜形成・コンディショニング効果です。

カチオン性つまり+の電気を有しています。

(+)の電荷を与えて、静電気の原因になる(-)の電気を放電させることで起きにくくなる仕組みです。

原材料は植物性天然セルロース。

糖の1部をカチオン化することにより生成される植物由来の高分子。

植物由来成分のため、髪や肌などに対して悪影響が少ないのが特徴です。

また、毒性ほとんどなしとされています。

(皮膚刺激性・眼刺激性・アレルギー(皮膚感作性)性の報告はありません)

●塩化ヒドロキシプロピルトリモニウムデンプン

じゃがいもなどのでんぷんから作られる、4級アンモニウム塩で、塩化グリシジルプロピルトリメチルアンモニウムと合成した、陽イオン界面活性剤です。

髪の毛の表面に作用して、キューティクルの剥がれた部分に吸着して補修し、指通りを滑らかにする成分です。帯電防止、乳化安定もある事から、コンディショナーなどのヘアケア商品に使用されている成分です。

カチオン系界面活性剤にしては、低刺激な特長があり、オーガニック商品に使用されやすいものです。

じゃがいものデンプンで作られている成分のため、毒性、副作用については、報告されていません。安全性にも、大きな問題の無い成分といえます。

●グリセリン

炭素と水素の化合物に酸素が加わった比較的シンプルな成分で、学術分野ではグリセロール (glycerol) と呼ばれます。

グリセリンは植物、海藻、動物などに広く含まれ、もちろん、人のからだにもあります。

化学的にはアルコールに分類される物質で、アルコールの特性である吸湿力を持つ無色透明の粘性のある水溶性の液体です。

しかし、化粧品成分で「アルコール」といえば、エタノールのことなので化粧品にグリセリンが入っていてもアルコール配合といいません。

化粧品成分以外でも食品添加物（甘味料、保存料、保湿剤）として、幅広く使われています。

●エチドロン酸

水溶性のエチドロン酸の四ナトリウム塩です。

配合上限濃度以下及び通常使用下において、一般的に安全性に問題のない成分であると考えられます。

●アスパラギン酸ジ酢酸 4 N a

四ナトリウム塩であり、ジアミン誘導体です。製品の質を保持する為に必要。

●フェノキシエタノール

天然には日本茶の一種である玉露の揮発成分であると報告されており（文献 5:1981）、また綿花地帯の近辺に見出される空中浮遊物質としても報告されています（文献 6:1975;文献 7:1976）。

これらの報告は、いずれもヒトへの暴露に対する安全性を絶対的に示すものとして捉えるべきではないものの、とくに問題なく低レベルでヒトが吸入摂取してきた長い歴史を物語るものであると考えられます。

フェノキシエタノールの抗菌剤としての歴史は古く、主にヨーロッパで 1950 年代に医薬品の防腐剤として使用され、今日でも小児用ワクチンやインフルエンザワクチンなどをはじめとするワクチン類などの防腐剤として汎用されています。